

目的 前報では裏地の物性を因子分析し、スカート形状にした場合の形態保持性には曲げおよびドレープの特性が関与することを報告した。本報では裏地に表地を重ね、前報同様の実験を試み、裏地の特性の表地におよぼす効果について検討した。

方法 1) 試料は特性の異なる裏地7種、表地7種とした。2) スカートの縫目のない円形状で実物の1/2大とし、製作後温度 20 ± 2 ℃、湿度 60 ± 5 %の部屋に保管した。3) 下方および側方からの写真をもとに外観形状を観察した。形状因子はノード数、山の高さの平均および変動率、山間の角度の変動率、垂下角度、垂下長等である。4) 経時変化の観察は垂下後24時間、1、2、3、4、5週間後の計6回である。

結果 1) ノード数に裏地のおよぼす効果は大きく、ジョーゼット、ウールギャバジン等のドレープ性の大きい表地はその影響を受けやすい。2) 山の高さすなわちスカートのひろがりには曲げ剛さの大きい裏地と組み合わせた場合に大になる傾向にあり、特にポリエステル裏地は形態保持性がよい。3) ノード形状の均一さにも裏地のおよぼす効果は大きく、いずれの表地も曲げ剛さの大きいナイロンタフタを組み合わせた場合に山の高さの変動率は大きい。また山間の角度の変動率は裏地のない場合より裏地のついた場合に小さく、特に曲げ剛さの大きいデニムではその差が顕著である。4) 経時変化は山の高さに最もよく現われ、いずれの試料の組み合わせも3週間後までの減少が大きく、それ以降は小さい。